

<目指せ！うるち玄米1等米比率90%以上！！>

## 播種～苗立ちまでのポイント（コシヒカリ）

- ① 播種深度は5～10mmとし、目標苗立本数：40～80本/m<sup>2</sup>（12～25本/m）を確保
- ② 土壌条件に応じた基肥基準量の厳守（窒素成分で移植栽培より1割程度減肥する）
- ③ 播種後の田干しの実施（苗立ちの安定化を図る）

### 1 ほ場準備 ☆ほ場の均平を良くし、播種面の水管理をしやすくする！

- ・ほ場の均平が悪いと播種ムラや出芽ムラが発生し、生育不揃いの原因となるので耕起から砕土・整地の作業は、移植よりも丁寧に行いましょう。
- ・代かきは少なめの水で行い、稲株や雑草をすき込みましょう（表1）。

表1 代かき時期の目安

土質	代かきの目安
砂壤土	播種2～3日前
埴壤土	播種4～5日前

### 2 基肥

ねり過ぎに注意する

- ・基肥は、窒素成分で移植栽培の1割程度減肥しましょう（表2）。
- ・大豆跡田での「コシヒカリ直まき」は、倒伏の危険性が高いのでできるだけ避けましょう。やむを得ず行う場合は分施肥体系としましょう。
- ・「富富富」を直播する場合の基肥量は、「富富富直まき専用肥料」を富富富移植と同じ窒素量で施用し、大豆跡では窒素成分で1kg程度減らしましょう。
- ・「てんこもり」を直播する場合の基肥量は、コシヒカリ直播より窒素成分で1kg程度増量しましょう。

表2 基肥施用量の基準(コシヒカリ)

土質	直播用基肥一発 (LPss直播コシヒカリ)		分施肥:側条施肥 (基肥206)	
	施用量 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)	施用量 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)
砂壤土～ 砂質浅耕土	35	7.4	30	3.5
壤土	30	6.3	25	3.0

### 3 播種 ☆適正量で適期に行い、苗立ちを確保する！

- ・播種は4月25日～5月10日までに行う。
- ・播種前の落水は、播種作業が「午前中の場合は前日の夕方に」、「午後の場合は当日の早朝を」目安とし、土壌条件や気象条件に応じて行いましょう。
- ・作業中は確実に覆土（5～10mmの播種深度を確保）できていることを確認し、種子や肥料の落下量（各ホッパー内の種子や肥料が均等に減っているか等）をチェックしましょう（表2、表3）。

表3 播種作業の目安

播種量		目標の苗立本数 (播種後20日間後)
乾粒重量	播種粒数	
2.5～3.0kg/10a	28～33粒/m	12～25本/m

苗立率 50～80%

### 4 播種後の水管理 ☆湛水土中直播の場合、播種後の田干しで出芽を促進！

- ・出芽が揃うまで（播種後5～7日程度）、土壌表面に亀裂が入る程度の田干しをしましょう。ただし、強い降雨や強い風が吹く場合には入水してください。また、転作跡など透水性の大きいほ場では、乾き過ぎに注意しましょう（除草効果の低下、除草ムラになります）。
- ・播種後、覆土が不十分で鳥害が懸念される場合は、田干し前に半日程度湛水しましょう。
- ・田干し後（出芽後）は、水深3cm程度の浅水管理とし、初期分けつの確保に努めましょう。

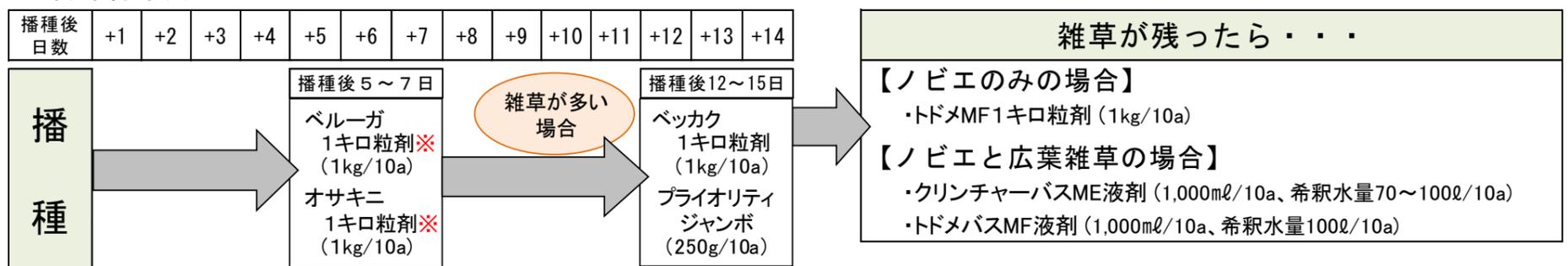


田干しの程度は、田に足をふみ入れ、2～3cm程度しか沈まなくなった頃が入水時期です。

### 5 除草剤の散布 ☆除草剤は使用時期の範囲内で遅れないように散布する！

☆除草剤散布後5日間は湛水状態を維持し、散布後7日間は止水管理とし、落水しない！

<除草体系例>



※ ペルーガ1キロ粒剤、オサキニ1キロ粒剤は、播種直後から散布できますが、湛水土中直播の場合では、播種後の田干しを行った後入水してからの散布となります。

- ・気温が高いと散布適期が更なるため、散布が遅れないようにイネとノビエの葉齢を確認しましょう。
- ・田面の亀裂が大きい場合は、入水後、減水が落ち着いてから散布しましょう。

### 6 鳥害対策

- カモ ほ場内に糸やテープ等を張り侵入を防ぎましょう。飛来した場合は落水しましょう。
- スズメ 播種後、種籾が露出して見える場合は一度入水して覆土しましょう。飛来した場合は速やかに入水しましょう。
- カラス カラスの飛来が懸念されるほ場では、播種後、ほ場内や周辺に水系を張り、飛来防止に努めましょう。

令和8年 春の農作業安全運動 3月1日～5月31日 「農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底」